



町の国際交流員になってようやく3カ月目。今年7月、ルイーエナ町を訪問した東川町訪問団一行の通訳を担当したことが初仕事でした。その後8月下旬から約3週間、東川の高校生をラトビアに同行して訪問交流を図る案内役に。短期間にラトビアと日本との間を行ったり来たり。その後もラトビア展示会の準備に追われ、ようやく町の様子を楽しむゆとりが出てきた様子。間もなく訪れる初めての冬を楽しみにしています。

「この町に入ってきた時、『きれいな町だな』と思いました。一番いいと思ったのは、小さなお店がいっぱいあって、木で造っている家がいいなって…。ラトビアは山がない国なので『あーっ、山がある』。東川は山に囲まれているので、散歩する時いつも山を見る

ことができている。ところができて良い気持ちになれない。趣味は旅行。ラトビア国内の各地、ヨーロッパ各国を旅し、日本国内は、山形大学留学時に、福島宮城を巡ったそうです。料理の文化に興味があるそう。「ラトビア国内でも、西と東では文化が全然違います。地方によって特別な料理がいろいろある。西のルイーエナに比べて、東のラトガレ地方に行くとラトビア語を話せない人たちがいたり、料理文化も魚料理に対してジャガイモ料理です。北海道の料理をもっとよく知りたい」。

「高校生の時、これから何をしようか分からなかった。好きだったのは英語だけ。ラトビア大学のパンフレットを見ながら『何しよかなあ』と見ていて、アジア学科の日本語、中国語がおもしろそうだなと思いました。そして一番難しいのを選びました。それまで

お母さんに進路の選択の話をしたことは一回もなく、びっくりしていました」。

入学してから学び始めたにもかかわらず、とても流ちょうな日本語。大学に入ってからだんだん興味を持つようになっていったそうです。「日本語の発音が大好きです」。



でも敬語はなかなか上手になれません」。

「山形では英語を話す人があまりいなかった。これは日本語を勉強するために良いことでした。銀行も郵便局もみんな日本語しか話せないから、手続が必要なら、そこに行つて、頑張って日本語で話すしかない。日本に来た時、最初はみんななぜ笑うのか分からなかった。でも1年経つてみたら、

山形大学に留学中、日本の和服着付けも学びました(2009年5月)



留学生の研修でスペース那由他を訪問(2009年10月、山形県上市市)

テレビ番組を見て自分が笑ってた」。留学が終わってラトビアに帰国後、すぐに日本に戻りたい、と思ったそうです。「今、ここにいられることがうれしい。北海道のいろいろなことを見たい。まずは稚内まで行きたい」。

ボグダノヴァ・クリスタさん

ラトビア・クルゼメ地方タオシィ町出身、27歳。ラトビア大学人文科学部アジア学科修士卒業(日本文化専攻)。今年8月から東川町国際交流員(地域活性化課)。2008(平成20)年から1年間、山形大学に留学。前任のウナ・ヴォルコヴァさんとは、ラトビア大学の在学時に2年間同級生だった友人同士。



ルイーエナ町に派遣した東川の高校生を案内しました(9月1日、ルイーエナ高校で)